

現代文II

「現代文Ⅱ」の特長と使い方

●本書のねらい

このテキストは、現代文の読解力のレベルアップと漢字・語句・文法の知識の確認をねらいとしてつくられています。

今まで現代文読解の練習に時間をさいてきたが、どうもテストの結果にその効果があらわれない、と感じている人が多いのではないかと思います。現代文の読解問題では、内容が正しく読み取れても、それを設問の指示に従ってうまく表現できないと評価されません。このテキストでは、現代文読解問題の設問をパターン別に分け、各パターンごとに解法のポイントをとらえ、実戦的な読解力を身につけることに主眼を置いています。

●本書の特色

- このテキストは、「設問パターン別演習編」と「ジャンル別読解演習編」で構成されています。
- 「設問パターン別演習編」では、入試問題等の設問パターンごとに解法・答案作成のポイントをとらえ、問題演習で定着させます。
- 「ジャンル別読解演習編」では、いろいろなパターンの設問が組み合わせられた長文問題で、実戦的な力を養います。
- 高校生が現代文を学習する上で必読の文章を、読解問題の題材として幅広く採っています。
- 各回の「言葉のドリル」で、漢字・語句・文法などの知識事項の確認ができます。

●本書の構成と使い方

設問パターン別演習編

- 例文演習……………解法のポイントを、例文を通してとらえます。
- 演習1……………「例文演習」の類題で、解法が理解できたかどうか確認します。
- 演習2……………各設問パターンに重点をおいた長文問題による読解演習です。

ジャンル別読解演習編

- ジャンル別に読解問題を集め、読解の総合的な力を養うための演習をつみます。
- 演習1……………基本レベルの演習問題です。自分の弱い設問パターンは、「設問パターン別演習編」で確認しておきましょう。
 - 演習2……………入試レベルの長文読解問題です。
- 《解答・解説(別冊)》……………解答例とともに、詳しい「解説」がついています。

目次

設問パターン別演習編

15	記述・論述問題(2)	60
14	記述・論述問題(1)	56
13	韻文の表現・主題に関する問題	52
12	主題に関する問題	48
11	筆者の主張に関する問題	44
10	筆者の心情に関する問題	40
9	人物の心理・性格に関する問題	36
8	乱文整序問題	32
7	脱文補充問題	28
6	段落関係に関する問題	24
5	同一内容・対比的内容に関する問題	20
4	部分の解釈に関する問題	16
3	語句の意味に関する問題	12
2	指示語の内容に関する問題	8
1	空欄補充問題	4

- ◆ 実力判定問題(1)
- ◆ 実力判定問題(2)

18	韻文(2)	140
17	韻文(1)	136
16	随筆(4)	132
15	随筆(3)	128
14	随筆(2)	124
13	随筆(1)	120
12	小説(4)	116
11	小説(3)	112
10	小説(2)	108
9	小説(1)	104
8	評論(8)	100
7	評論(7)	96
6	評論(6)	92
5	評論(5)	88
4	評論(4)	84
3	評論(3)	80
2	評論(2)	76
1	評論(1)	72

ジャンル別読解演習編

① 空欄補充問題

例文演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

本文

- 1 □ A、Dに入れるのに最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。ただし、同一の語は一回しか使ってはならない。
- A () ア やっぱり B () イ しかし C () ウ ただ D () エ ふと E () オ てっきり F () カ うっかり

【解法のポイント】

- ① 空欄の前後をよく見て、そこに入る語の品詞を推定する。
- ② 段落の出だしにある空欄については、まず接続詞を考えてみる。また、空欄のすぐ後に、動詞・形容詞・形容動詞・副詞がきているときは、副詞をあてはめてみる。
- ③ 空欄のすぐ後に読点があるかないかに注意する。それによって、空欄補充語の品詞や他の語との関係が決まる。
- ④ 最初の空欄が決まりにくいときは、あとまわしにして、同意語や反意語などの見当のつけやすいものから入れていく。

◇ 例文演習の着眼点

Bはひょいと自分の表札を見つけたために思わず「立ちどまった」こと、Cは最初の判断が正しかったことを再確認するところ、Dは初めからそう思い込んでいたことから、それぞれ見当をつける。

5 空欄補充問題

- 1
- | | | | | | | | |
|---|---|---|----|----|------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| I | E | A | ス | ケ | オ | ア | □ A-Jに入れるのに最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。 |
| (| (| (| 基調 | 輪郭 | 必然 | 外貌 <small>ぼうぼう</small> | |
| (| (| (| セ | コ | カ | イ | |
| J | F | B | 拡大 | 神髄 | 区画 | 錯綜 <small>さくそう</small> | |
| (| (| (| サ | キ | ウ | ウ | |
| (| (| (| 描写 | 偶然 | 点綴 <small>てんてつ</small> | 点綴 | |
| (| (| (| G | C | シ | ク | |
| (| (| (| (| (| 却 <small>かえ</small> って | エ | |
| (| (| (| H | D | 創造 | 丘陵 | |
| (| (| (| (| (| (| (| |

演習1

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

本文

言葉のドリル

〈漢字の読み書き〉

① 次の傍線部の漢字の読みを書け。

- 1 文化祭を企画する。()
- 2 即興の詩をつくる。()
- 3 秘密を暴露する。()
- 4 卒業証書を授ける。()
- 5 全校生徒の期待を担う。()

② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

- 1 地震をヨチするための研究をする。()
- 2 隣の赤ちゃんが日々スコヤかに成長している。()
- 3 大勢の聴衆の前にギターをドクソウする。()
- 4 山道を登りつめると急にシカイが開けた。()
- 5 自然のオンケイに浴する。()
- 6 日本記録をコウシンする。()
- 7 料理の腕をキソい合う。()
- 8 外国とのポウエキ。()
- 9 協会にカメイする。()
- 10 大は小をかねる。()

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

本文

1 ABCに入れるのに最も適当な語の組み合わせを次から選び、その記号を○で囲め。

ア	A	番頭	—	B	銀持	—	C	能衆
イ	A	銀持	—	B	番頭	—	C	旦那
ウ	A	銀持	—	B	分限者	—	C	能衆
エ	A	能衆	—	B	分限者	—	C	銀持

2 DEIに入れるのに最も適当な語の組み合わせを次から選び、その記号を○で囲め。

ア	D	つまり	—	E	さて	—	I	しかし
イ	D	しかし	—	E	ところで	—	I	おそらく
ウ	D	おそらく	—	E	しかし	—	I	つまり
エ	D	ところで	—	E	おそらく	—	I	むろん

3 FGHに入れるのに最も適当な語の組み合わせを次から選び、その記号を○で囲め。

ア	F	住居	—	G	商店	—	H	環境
イ	F	環境	—	G	商業	—	H	構造
ウ	F	交通	—	G	商業	—	H	住居
エ	F	住居	—	G	生活	—	H	構造

4 Jに入れるのに最も適当な文を次から選び、記号を○で囲め。

- ア 芸事が寄合をもちかねるようになってきた
- イ 生活が文化をもちかねるようになってきた
- ウ 趣味が実益をもちかねるようになってきた
- エ 旦那が番頭をもちかねるようになってきた

① 評論 (1)

演習 1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

言葉のドリル

〈ことわざ〉

① 次の空欄に適当な語を入れてことわざを完成させよ。

- 1 () () すれば通ず
- 2 光陰 () () のごとし
- 3 転ばぬ先の () ()
- 4 地獄で () ()
- 5 蓼食う () () もすきずき
- 6 角を矯めて () () を殺す
- 7 鳥なき () () のこうもり
- 8 () () は人のためならず
- 9 歯に () () 着せぬ
- 10 貧すれば () () する

〈対義語〉

② 傍線部のカタカナを漢字で書け。

- 1 (1) 人類の敵をゾウオする。 () ()
- (2) 音楽をアイコウする。 () ()

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

1 — 線①「敵対的」とは、どのような意味か。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

- ア 技術者は上役として命令する立場にあり、作業者は内心で不満でも服従しなければならない。
- イ 作業者は技術進歩のためにいろいろと協力したのに、新しい装置を作った功績は、技術者に一人占めされてしまう。
- ウ 技術者はどんどん昇進するが、作業者は下積みそのままである。

エ 技術の進歩をめざす技術者の努力が、かえって作業者の労働からよろこびを奪ってしまふ。

オ 技術者は生産の能力を高めるといふ立場から新しい装置を設計するが、そのために作業者の仕事がつくなくなり職業病が増えてしまふ。

2 — 線②「彼が競馬にこっている」のはなぜか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 技術開発が一段落して、当分は仕事が忙しくないから。

イ 自動化によって仕事時間が短縮し、レジャー活動をするゆとりができたから。

ウ 作業者は技術者より給料が低いので儲けて収入を補いたいから。
エ 労働のおもしろさが失われてしまったので、他のものにおもしろさを求めているから。

オ 技術者との対立が生じて職場の人間関係が気まづくなったので、気分を晴らしたいから。

3 この文章での筆者の主張を次から一つ選び、その記号を○で囲め。

ア 技術の進歩を実現するためには、アイデアを提出する技術者と現場の経験の豊富な作業員とが協力することが大切である。

イ 技術の進歩によって労働時間にゆとりができ、労働者は仕事にも自分の趣味について考える暇をもつようになる。

ウ 技術の高度化に伴って、作業者と技術者の差はなくなる。

エ 技術の進歩に伴って、個人生活に占める労働の比重が減少し、余暇活動の領域が拡大する。

オ 技術の進歩によって、対象的自然との接触が労働の領域から失われるとともに、労働のよろこびが減少していく。

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

本文

1 線①「爺っちゃんやが炉端の石地蔵になった」とは、どういうことか。簡潔に説明せよ。

2 線② Aに当てはまるものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 自分の家へ引き返す自信までもなくしていた
イ 働く気持ちをすっかりなくしていた

ウ 母っちゃんにしかりつけられるのがこわかった

エ 東京の仕事がどうしてもいやになっていた

3 線③ Bに当てはまるものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 母っちゃんは本当に気が触れているのだから

イ 母っちゃんがいずれ正気に返るのだから

ウ 母っちゃんの気持ちがそれで慰められるのなら

エ 父っちゃんの魂が戻ってくるのなら

4 線④「日が落ちると、とてもこんな鳥寄せの笛でも鳴らさないではいられないのです」とは、どんな気持ちからか。簡潔に説明せよ。

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

1 Aに入れるのに最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

- ア 退屈なものだね
- イ 慣れを必要とするね
- ウ 気まぐれだね
- エ 思索的だね
- オ 不愉快だね

2 Bに入れるのに最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア そうめつたに入る訳でない

イ おさえる訳にはいかないものだ

ウ 以前はよく朝湯を楽しんだ

エ 以前は朝湯に入らなかった

オ 他人にうまく説明できないものだ

3 ———線①「私は友人が幸福な環境のなかで育った人であることを知る」とあるが、なぜそう判断したのか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 障害がそれほどでもないのにひどく不機嫌になったりするから

イ 物事がいつも自分の思いどおりになることに慣れている様子だから

ウ 散歩の意義を自分の生活環境の範囲だけで勝手に決めているから

エ 踏切のようなものでもおもしろおかしく話題にできるような人柄だから

オ 不満を述べることで他人を傷つけることになるのを知らない様子だから

4 ~~~~~線①②③の意味として最も適当なものを次からそれぞれ選び、その記号を○で囲め。

① 夙に

ア うまれつき

ウ 心そこから

イ 朝早くから

エ ずっと以前から

② 贅沢沙汰

ア 贅沢にひたすらふけること
イ 贅沢過ぎるという評判
ウ 贅沢だといわれるような行爲
エ 贅沢を望む気持ち

③ 手を振って

ア おおいばり
イ さっそうとして

ウ 虚勢をはって
エ 元氣いっぱい

5 ———線②「どうして今までここに思い至らなかったのか」とあるが、筆者はどんなことに「思い至らなかったのか」というのか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 朝湯が好きなのは自分だけではないこと

イ 好きなことを遠慮するのは愚かだということ

ウ 朝湯を楽しむのが贅沢なものであること

エ 朝湯も仕事のためという大義名分が立つこと

オ 朝湯によって頭が爽やかになること

6 「踏切」と「朝湯」という二つの話題からうかがえる「私」の人物像をまとめるとすれば、次のどれが最も適当か。記号を○で囲め。

ア 行動に移る前にまずその理由づけをしなければ気がすまないような人物

イ 自分のしていることについて必ずうしろめたさを感じて思索にくれるような人物

ウ 他人の考えかたも一応は理解するが自分なりの生活感情から離れられない人物

エ 世間の人とはちがった個性的な生きかたの可能性をいつも求めている人物

オ 自分の生いたちや習慣に都合の良いような解釈を何事に対しても当てはめたがる人物

⑰ 韻文(1)

演習1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

- 1 この詩の第三行、第四行、第五行で織りなされるイメージはどんなものか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。
- ア 暗黒の、よごれた、非人間的ともいえる雰囲気イメージ。
- イ たのしくにぎやかで華麗な雰囲気イメージ。
- ウ 広漠とした平野には静かな光線がみち、青空がおおっている、といったイメージ。
- エ 荒々しく過剰な光は白昼夢を現出するよう。その中で物はみな虚無の陰影のように動く、といったイメージ。
- 2 第六行からどんなイメージが受け取れるか。適当なものを二つ選び、その記号を○で囲め。
- ア 生活にうちひしがれた少年のむなしい、悲哀にみちた笑い。
- イ 少年、と表現されていても、じつはそれとはかわりのない何か、全体として硬質な、無機質性のイメージである。
- ウ アーケイック（古代的）な少年の笑い。神のように純粹で善良で非情である。ふと作者

言葉のドリル

〈誤字訂正〉

- ① 次の文の中で漢字に誤りがあれば、その字を抜き出し、正しい漢字に直して書け。
- 1 手紙を真展にして出した。()
- 2 遍差値が高い。()
- 3 書店で週間誌を買う。()
- 4 田中君を部長に認命する。()
- 5 自分の脳力を過信する。()
- 6 実力を十分発起する。()
- 7 ストーブに転火する。()
- 8 どころなく異和感がある。()
- 9 圧力を加えたら破烈した。()
- 10 それは仮空の物語である。()

は永遠の影にふれたのでは？ と考えるようなイメージ。

エ 動物のように無邪気で生命力にあふれた少年の無心の笑いのイメージ。

3 第二行の「ことがあった」という過去形使用による回想形は、これをもし問題にするとすれば、ということが思われるだろうか。おそらくありえないだろうと思われるものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 回想の形をとって、自分の経験を間接化し、また散文的に述べるようにして、抒情詩がえてしてもつ感動の強い緊迫感を避ける効果を生んでいるのではないか。

イ ただ、実際に、作詩時からみて、過去に経験した事実であっただけで、他の何ごとでもない。

ウ 日常生活の一断片風に示されることで、海外の風景も、民族固有の風土と同じものになされ、開かれた全人的な、しかも個人的・個性的な目によって見られるものとなっているのではないか。

エ 直接の現在ではなく、時間をおいた後の回想でこそ、意識のベールの向こうに、ふと、いつもかわらぬ、おそらく永久にかわらぬ何かが、みられているのではないか。

4 この詩からみて、この詩の作者に関する寸評を次から選び、その記号を○で囲め。

ア 知的であること、感覚が美しいこと、現実にとらわれないこと、近代的であること、欧風であること、と評されるが、重層的に構築されたイメージによって現実を再構成しなおす点もつけ加えておこう。

イ カトリシズムへの傾斜は、近代ヒューマニズム没落への同時代的共感とともに、その強い倫理意識を支える柱となっていた。

ウ 折角人間の内的世界を、非人間性と反自然において問う眼を提出しつつあったのに、当時の公式的な現実把握の仕方から十分に解放されていず、現実への主体的視点が確立されていないかった。

エ 人生的正しさをみつめ、その個人的真実をとおして時代の現実に向けて社会的真実を追求する。いわばヒューマニストの立場にたった。

〔まちがいやすい漢字〕

② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

- | | | | | | |
|-----------------|--|---|---------------|---------------------------------|-------------------|
| 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ ツ み草。 | ③ 新車 をコウ ニユウ することにしま した。 | ② 野菜も果物 <small>くだもの</small> もサイ バイ しています。 | ② キ セイ 虫。 | ② 彼らはど ちら かという とオン ケン 派である。 | ③ 問題がサ ンセ キ している。 |
| ② 水はイ ッテ キも ない。 | ② あ <small>の</small> 先 生 の コウ ギ は 大 学 で 一 番 人 気 が あ る。 | ① サイ バン 所へは どう 行く のです か。 | ① 五も七もキ スウ だ。 | ① 容 疑 者 は 証 拠 の イン メツ をは か つ た。 | ② 車に荷物 を ツ む。 |
| ① 不正をテ キハ ツする。 | ① テレ ビ の バラ エ ティ ー 番 組 を コウ セ イ する。 | ① 五も七もキ スウ だ。 | ① 五も七もキ スウ だ。 | ① 容 疑 者 は 証 拠 の イン メツ をは か つ た。 | ① セ イ セ キ が 悪 い。 |
| () | () | () | () | () | () |
| () | () | () | () | () | () |

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

1 ———線①「ルネッサンス的巨人」の意味として最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 芸術的なジャンルの一部門に、完璧な美を創り出す芸術家
 イ 現実から離れた高踏的境地に自己を置いて創造する芸術家
 ウ 各種の創造的欲求の調和的な総合の中に、人間的完成を目指している芸術家

2 Aに入れるのに最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア モチーフ イ テーマ ウ イメージ
 エ 表現 オ 形式 カ 論理

3 Bに入れるのに最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 言葉の論理的構造が、そのままある一つの象徴的な世界を形成しているのであって

イ 言葉の論理的構造によって、背後の人間を浮かび上がらせるのであって

ウ 内部に豊かなイメージをはらみ、自立した作品世界として独立しているのであって

エ 微妙な感覚的な衝撃力によって、読者を直接震撼させるのであって

4 ———線②「芸術家」の意味として最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

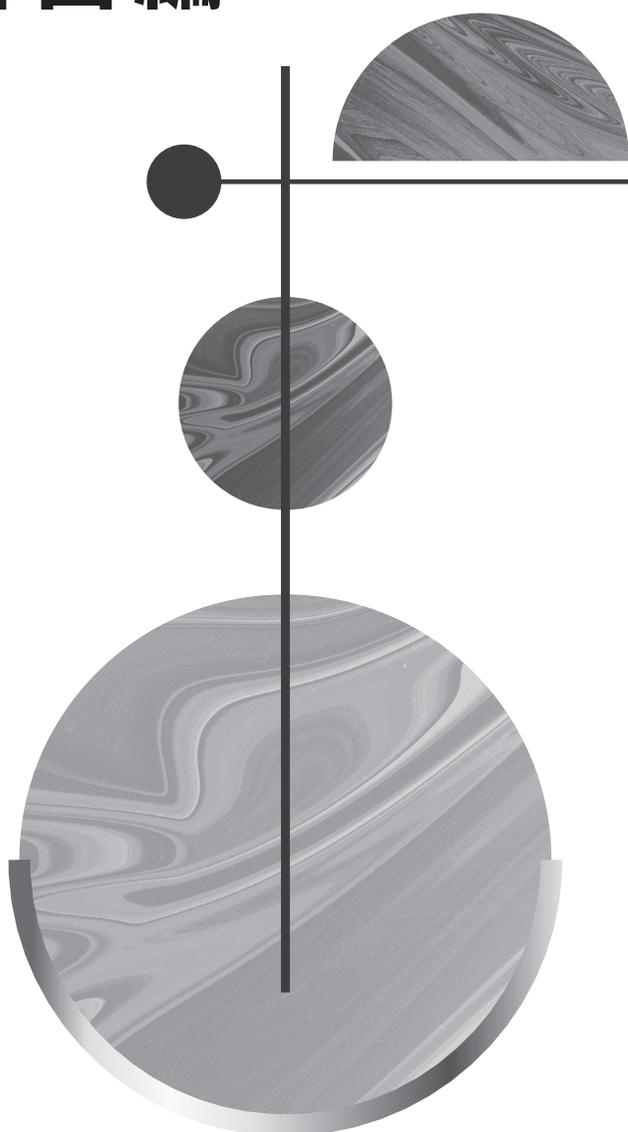
ア 作品を完成させる、職人としての一面をもっている人
 イ 近代的なモラルを背負っている人

ウ 作品の背後に作者の人柄がうかがわれる人
 エ 近代芸術家としての意識が純粹な人

高校ゼミ
Essence

現代文Ⅱ

解答編



① 空欄補充問題

(P. 4～7)

例文演習

- 1 A カ B エ C ア D オ
1 A エ B ケ C イ D カ E ウ F ス G キ H シ I ア J コ

演習1

解説

言葉のドリル

- 1 予知 2 健 3 独奏 4 視界 5 恩恵 6 更新 7 競 8 貿易 9 加盟
① 1 きかく 2 そつきょう 3 ばくろ 4 さず 5 にな ②

次講座

解説

演習2

10 兼

- 1 ウ 2 ア 3 エ 4 ウ

前講座

●ジャンル別読解演習編

① 評論 (1)

(P. 64～67)

演習1 1 第二段落：現代の青年 第三段落：ところどころで
意外と親子が馴れ合っている節が存すること。 2 家庭の中では
から。 4 新旧両世代の価値観の相違が明らかでないから。 3 価値観が問題にならない

解説

前講座

解説

言葉のドリル

1 窮 2 矢 3 杖 4 仏 5 虫 6 牛 7 里 8 情 9 衣

10 鈍 ㊦ 1 (1) 憎悪 (2) 愛好 2 (1) 偶然 (2) 必然 3 (1) 消滅 (2) 生成 4 (1) 高

尚 (2) 卑俗 5 (1) 枯竭 (2) 充滿 ㊧ 1 イ 2 ア 3 ア 4 イ

演習 2

1 エ 2 エ 3 オ

解説

次講座

前講座

⑨

小説 (1)

演習 1

1 掌
2 Aソ
Bイ
Cケ
3 強情と気儘

(P. 96 ~ 99)

解説

前講座

(言葉のドリル)

① 1じゅんか
2こうそく
3しよこう
4まつしようてき

5 かんにん
6 おうのう
7 くんぶう
8 けいじてき
9 ゆちやく
10 げん
11 解

か
② 1率
2 権
3 期
4 殺
5 功
6 易
7 執
8 虚
9 戯
10 解
11

除 12 悔

演習 2

1 爺っちやが炉端にすわりこんで、まったく口をきかなくなった。
2 ア 3 ウ 4 せめて思い出につながる笛を鳴らして、やりどころのない悲しみをまぎらわしたい。

解説

次講座

次講座

前講座

⑬ 随筆 (1)

(P. 112 ~ 115)

演習 1 1 悲しみから狂ったらしい婦人への思いやりから、彼女の異様な挙動にあわせてやろうという温かい心持ち。 2 周囲の好奇心を気にせず、死んだ息子のように人形の世話ができるようになったこと。 3 同席の誰もが温かい心で夫人とともに人形との会食に加わったから。 4 老夫婦の心を傷つけ、和やかな雰囲気はくずれたであろう。 5 愛児を失った深い悲しみの純粹さ

解説

解説

言葉のドリル

① 1 つかさめし 2 くすだま 3 かぐら 4 ちようよう 5 じもく 6 はつうま 7 たんご 8 せんさい 9 あせくら 10 えぼし ② 1 ① こうず ② こうじ 2 ① へた ② したて ③ げしゅ 3 ① しゅれん ② 3 りん 4 ① のうしよ ② のうが 5 ① ぞうさく ② ぞうさ ③ 1 煩 2 欺 3 願 4 隠 5 誘 6 潜 7 鍛 8 敵 9 稼 10 脅 1 才 2 ア 3 イ 4 ① エ ② ウ ③ ア 5 エ 6 ウ

解説

次講座

解説

次講座

前講座

演習 1

⑰

韻文 (1)

- 1 ウ
- 2 イ・ウ
- 3 イ
- 4 ア

(P. 128
S 131)

前講座

解説

- 言葉のドリル
- 起↓揮 7 転↓点 8 異↓違 9 烈↓裂 10 仮↓架
- 山積 2 ①隠滅 ②穩健 3 ①奇数 ②寄生 4 ①裁判 ②栽培 5 ①構成
- ②講義 ③購入 6 ①摘発 ②一滴 ③摘
- 演習2
- 1 ウ 2 ア 3 イ 4 ア
- ①真↓親 2 遍↓偏 3 間↓刊 4 認↓任 5 腦↓能 6
- ②↑①成績 ②積 ③

解説

次講座

解説